

pdf

2024.11.14【ハードエッジ】

2025.1

選11句／全37句

12行3段組14ポ 2024年11月14日 23:45 へ1 桐10

角 遠足のバス分数で繋がりぬ

角 助詞があり助動詞があり地虫出づ

角 参道の芽吹きたちまち踏まれたる

角 情熱も少し暑さに弱くとも

角 万葉の子孫百葉箱の夏

角 冷奴に葱と醤油や無位無冠

角 ゆづぐれの唄こうもりの子守唄

角 兄弟の大手を振って天高し

角 聞き役の任を解かれし墓洗ふ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 灰になり土に紛れて春を待つ

天あした手振って行く如し 11.15 5:55 am
ササビスクラウ 5:43 am
エサビデスクヘリ 11.15 5:42 am
正ゆたうして 11.15 0:21 am
情熱と暑さに弱くとも 11.15 5:40 am
情熱と暑さに弱くとも 11.15 0:20 am
情熱と暑さに弱くとも 11.15 0:29 am
情熱と暑さに弱くとも 11.15 0:153 am
情熱と暑さに弱くとも 11.15 5:49 am
情熱と暑さに弱くとも 11.15 9:42 am

2024・11・15【角川俳句賞2025 A take-02】選11句／全55句

12行3段組14ポ 2024年11月15日 11:02 へ1 桐10

~~角~~ 遠足のバスに分数表記あり

角 参道の芽吹たちまち踏まれけり

~~角~~ 情熱の少し暑さに弱くとも

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 冷奴に醤油垂らして無位無冠

角 天高し大手を振って行くべかり

角 聞き役の任を解かれし墓洗ふ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 難しき漢字は苦手力キフライ

今更や 49 am

ふつくと 蚊の腹に血が 2024 11.16 7:35 am

手遅けりや

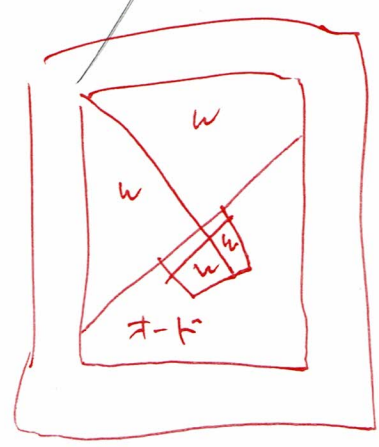
はかばか 無位無冠をり冷奴 11.16 13:55

2024 11.16 13:46

13:50 大股で 14:01

揚げ煮のからつと 11.16 13:48

仮名の力キフライ



~~角~~ 参道の芽吹たちまち踏まれけり

角 情熱や多少暑さに弱くとも

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

△ 角 日に水に砂に機械に時の日よ

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 天高し大手を振つて足上げて

角 聞き役の任を解かれし墓洗ふ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 揚げ立てのからり仮名書きカキフライ

角 灰になり土に紛れて春を待つ

2024・11・18【角川俳句賞2025 A 704 全84句】

選24句

12行3段組14ポ
2024年11月18日 18:40
へ1 桐10

角 情熱や多少暑さに弱くとも

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 揚げ立てのからり仮名書きカキフライ

○ 角 広島も長崎も炎天下なり

角 中元のタオルそのまま年を越す

○ 角 立ち眩む如く西日の沈みゆく

角 紫も清も遊びし双六と

11.20
2:35
am

○ 角 山火事に超然たるや大瀑布

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

~~角~~ 日に水に砂に機械に時の日よ

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 天高し大手を振つて足上げて

角 聞き役の任を解かれし墓洗ふ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 みんな家中電気で動く冬籠

2024・11・20【角川俳句賞2025 A 105 全94句】選24句

12行3段組14ポ 2024年11月20日 20:59 へ1 桐10

角 制服や中高一貫校の春

角 シャクシャクと水の硬さよ梨嚙る

角 情熱や多少暑さに弱くとも

角 男爵に出世の薯ぞ目出度けれ

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 中心は取り込み中の南瓜かな

角 広島も長崎も炎天下なり

角 檻々に動物園の息白し

角 立ち眩む如く西日の沈みゆく

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 山火事に超然たるや大瀑布

角 湯豆腐や葱も生姜も花かつを

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 日に水に砂に機械に時の日よ

角 揚げ立てのからり仮名書きカキフライ

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 初紅葉やも水底の一二枚

角 天高し大手を振つて足上げて

角 中元のタオルそのまま年を越す

角 聞き役の任を解かれし墓洗ふ

角 紫も清も遊びし双六と

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 灰になり土に紛れて春を待つ

2024
11.20
23:57

11.21
0:3
am

2024・11・21【角川俳句賞2025 A 706 全98句】選22句

12行3段組14ポ 2024年11月21日 06:55 へ1 桐10

角 制服や中高一貫校の春 ^{11.22 2:58 am}

角 情熱や多少暑さに弱くとも

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 広島も長崎も炎天下なり

角 山火事に超然たるや大瀑布 ^{11.22 15:10}

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 天高し^{11.22 6:28 am} 手を振つて足上げて ^{11.22 3:17 am}

角 聞き役の任を解かれし墓洗ふ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 シャクシャクと水の結晶梨囃る

角 男爵に出世の囁き目出度けれ ^{11.22 3:15 am}

角 中心は混線中の南瓜かな ^{11.22 0:53 am}

角 檻々に動物園の息白し ^{11.22 0:58 am}

角 みんな家中電気で動く冬籠 ^{11.22 3:11 am}

角 湯豆腐や葱も生姜も鰹節も

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 揚げ立てのからり仮名書きカキフライ ^{11.22 0:55 am}

角 初紅葉やも水底の一二枚 ^{11.22 0:55 am}

角 中元のタオルそのまま年を越す

角 紫も清も遊びし双六と

角 灰になり土に紛れて春を待つ

コントニ ^{11.22 3:10 am}
たふや ^{15:12}

極は毛物 ^{11.22 15:18}
極の外には毛皮人 ^{15:23}

四五枚の初紅葉 ^{11.22 15:12}
も水底

菊、生妻、糸子、鰹節、五郎屋 ^{11.22 15:12}

二枚水に沈みし初紅葉 ^{11.22 15:24}

2024・11・22【角川俳句賞2025 A 707 全130句】選28句

△2

角 制服の中高一貫校の春

角 中心の混沌たりし南瓜かな

角 雑草の高々枯れて植木鉢

角 情熱や多少暑さに弱くとも

角 二三枚水に沈みし初紅葉

角 中元のタオルそのまま年を越す

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 竹林の一番端の寒さかな

角 紫も清も遊びし双六と

角 広島も長崎も炎天下なり

角 石投げて古池を割る寒さかな

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 山火事に拘りの無き大瀑布

角 植木鉢春の出番を待つてゐる

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 檻ごとに動物達の息白し

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 檻に毛ものの檻の外には毛皮人

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 天高し大手を振つて眉上げて

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 聞き役の任を解かれし墓洗ふ

角 湯豆腐や葱も生姜も鰹節も

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 葱、生姜、辛子、鰹節湯豆腐屋

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 シャクシャクと水の結晶梨噛る

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 男爵の出世目出度し薯の秋

角 揚げ立てのからり仮名書きカキフライ

角 灰になり土に紛れて春を待つ

Order Edit

Position

12行3段組14ボ 2024年11月22日 18:05へ1 桐10

のはんちも枯れ

セトと年用

の残

の残

の残

の残

の残

の残

の残

の残

の残

の残

の残

の残

餅くらて柏の張り柏餅 中華三枚
2024.11.24 11:25 am

20
24

11・23

【角川俳句賞2025 A

708

全150句】

選28句

角 制服の中高一貫校の春

角 男爵の出世目出度し薯の秋

角 紫も清も遊びし双六と

角 柏餅の柏は食はず残しけり

角 中心の混沌たりし南瓜かな

角 汗かいて道をつけけり雪の朝

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 編集の加減乗除や文化祭

角 炭屋消え炭団も失せて雪達磨

角 情熱や多少暑さに弱くとも

角 石投げて古池を割る寒さかな

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 広島も長崎も炎天下なり

角 竹林の一番端の竹の凍て

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 雑草の生えたるも枯れ植木鉢

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 檻ごとに動物達の白き息

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 聞き役の任を解かれし墓洗ふ

角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

角 天高し大手を振って眉上げて

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 シャクシャクと水の結晶梨噛る

角 揚げ立てのからり仮名書きカキフライ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 中元のタオルセットを年用意

制服の中高一貫校の春

角男爵の出世目出度し薯の秋

角 紫も清も遊びし双六と

角餅食うて柏あまれり柏餅

角 中心の混沌たりし南瓜かな

角汗かいて道をつけけり雪の朝

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角編集の加減乗除や文化祭

角炭屋消え炭団も失せて雪達磨

角 情熱や暑さに多少弱くとも

角石投げて古池割るる寒さかな

角灰になり土に紛れて春を待つ

角 広島も長崎も炎天下なり

角竹林の一番端の竹の凍て

角山火事の迫りつつある大瀑布

角 雑草の生えたるも枯れ植木鉢

角 聞き流す毀譽褒貶の冷奴

角檻ごとに動物達の白き息

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 聞き役の任を解かれて墓洗ふ

角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

角 天高し大手を振つて眉上げて

角凍豆腐大豆の色に戻りけり

角シャクシャクと水の結晶梨嚙る

角揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角里は丸く山は長しよ芋の秋

角 中元のタオルセットよ年用意

2-あ)しきや13:40
閉き後の佐の如くに壺焼
13:23

関電紋の今に金蓋 ~~カカ~~ 13:50
洗子紋 13:41

引き継ぎ役の任を解かれて墓洗ふ
また引き継ぎ役の任を解かれて墓洗ふ

また
系統
ノ
ノ
ノ
ノ

この幼物も其の幼物も 13:31

ち
と
う
な
石
と
い
な
子
々
17

13:33

13:18

2024・11・24【角川俳句賞2025 A 710 全179句】選29句

12行3段組14ポ 2024年11月24日 21:42へ1桐10

角 制服の中高一貫校の春

角 男爵の出世目出度し薯の秋

角 中元のタオルセットよ年用意

~~角 餅食うて柏あまれり柏餅~~

~~角 中心の種の混沌たる南瓜~~

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 編集の加減乗除や文化祭

角 汗かいて道をつけけり雪の朝

角 情熱や暑さに多少弱くとも

角 古といふ字石といふ字や神無月

角 炭屋消え炭団も失せて雪達磨

角 広島も長崎も炎天下なり

角 石投げて古池割るる寒さかな

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 竹林の一番端の竹の凍て

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 雑草の生えたるも枯れ植木鉢

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 檻ごとに動物達の白き息

角 聞き役の今はお墓を洗ふ役

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 天高し大手を振つて眉上げて

角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

角 シャクシャクと水の結晶梨囀る

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

11.25 2:19 am
~おし勢212~

少し11.24 22:26
KM

に似てある11.24 22:30
おし勢212

古池の水割るる
石ひとつ
石のま
2024 11.25 2:47 am

おし勢212

2024・11・25【角川俳句賞2025 A 711 全195句】 選27句

削除 → noteへ
送る分も

角 制服の中高一貫校の春

角 男爵の出世目出度し暮の秋

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 編集の加減乗除や文化祭

~~角 炭屋なく炭団なき世の雪達磨自己模倣~~

角 情熱や少し暑さに弱くとも

~~角 古といふ字石といふ字や神無月~~

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 広島も長崎も炎天下なり

角 投石に古池割るる氷かな

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 竹林の一番端の竹の凍て

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 雑草の生えたるも枯れ植木鉢

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

~~角 檻ごとに動物達の白き息~~

角 聞き役の今はお墓を洗ふ役

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 天高し大手を振って眉上げて

角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

角 静動の石、竹、水や添水鳴る

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 シャクシャクと水の結晶梨噛る

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 中元のタオルセットよ年用意

角 制服に中高一貫校の春 角 男爵の出世目出度し暮の秋

角 万葉の裔の百葉箱の夏 角 編集の加減乗除や文化祭

角 情熱や少し暑さに弱くとも 角 投石に古池割るる氷かな

角 広島も長崎も炎天下なり 角 竹林の一番端の竹の凍て

角 山火事の迫りつつある大瀑布 角 雑草の生えたるも枯れ植木鉢

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴 角 みんな家中電気で動く冬籠

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

角 聞き役の今はお墓を洗ふ役 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 天高し大手を振つて眉上げて 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 静動の石、竹、水や添水鳴る 角 中元のタオルセットよ年用意

角 シャクシャクと水の結晶梨噛る 角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋 角 灰になり土に紛れて春を待つ

2024・11・26【角川俳句賞2025 A 13 全20句】 選28句

12行3段組14ポ 2024年11月26日 12:36 へ1 桐10

角 制服に中高一貫校の春 角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 万葉の裔の百葉箱の夏 角 男爵の出世目出度し薯の秋

角 超音波かも蝙蝠の子守唄 角 編集の加減乗除や文化祭

角 情熱や少し暑さに弱くとも 角 五で割つて十一月に余り無き

角 広島も長崎も炎天下なり 角 投石に古池割るる氷かな

角 山火事の迫りつつある大瀑布 角 竹林の一番端の竹の凍て

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴 角 雑草の生えたるも枯れ植木鉢

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ 角 みんな家中電気で動く冬籠

角 聞き役の今はお墓を洗ふ役 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

角 天高し大手を振つて眉上げて 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 静動の石、竹、水や添水鳴る 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 シャクシャクと水の結晶梨噛る 角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も

角 紫も清も遊びし双六ぞ
角 旅ゆけば雪また雪のユーラシア

角 灰になり土に紛れて春を待つ

11-26
15:35
(K-M)

20
24
・
11
・
26
【角川俳句賞2025 A 14 全21句】
選29句

12
行 3
段組 14
才 20
24
年 11
月 26
日 20
10
へ 1
ゝ 桐
10

角 制服に中高一貫校の春

角里は丸く山は長しよ芋の秋

角 中元のタオルセットよ年用意

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角男爵の出世目出度し薯の秋

角紫も清も遊びし双六ぞ

角 超音波かも蝙蝠の子守唄

角 編集の加減乗除や文化祭

角福神のひいフウ、みいヨ、いつムウな

角 情熱や少し暑さに弱くとも

角五で割つて十一月に余り無し

角 長旅の雪また雪のユーラシア

角 広島も長崎も炎天下なり

角 投石に古池割るる氷かな

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角山火事の迫りつつある大瀑布

角竹林の一番端の竹の凍て

角 聞き流す毀譽褒貶の冷奴

角 雑草の生えたる植木鉢も枯れ

凡そ
分々に
推考
か
生え
11、
-17

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角　みんな家中電気で動く冬籠

三才方抄

角 聞き役の今はお墓を洗ふ役

角湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

新丰市 3 11 27

角 天高し大手を振つて眉上げて

角凍豆腐大豆の色に戻りけり

やわて

角 静動の石、竹、水や添水鳴る

角揚げたてのカリ仮名書きカキフライ

かたきんに濃ろして

角シャクシャクと水の結晶梨嚙る

角鶴舞ふやその手羽元も手羽先も

1. 雜草の全滅は枯草枯木等 2024
11.27
2:13pm

石に古池割るる氷かな
古池や石もて開く氷面統

~~木~~
~~分~~
~~に~~
推
考
か
え
11.26
-1750

[illegible]

2 招 机

2024・11・27【角川俳句賞2025 A 15 全24句】選34句

12行3段組14ポ 2024年11月27日 18:40へ1 桐10

角 制服に中高一貫校の春

角 天高し大手を振つて大手町

角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

角 飾りある内の裏なる内裏雛

角 静動の石、竹、水や添水鳴る

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 シャクシャクと水の結晶梨噛る

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 超音波かも蝙蝠の子守唄

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も

角 掘つて来し土龍は出会ふ蚯蚓かな

角 男爵の出世目出度し薯の秋

角 中元のタオルセットよ年用意

角 情熱や少し暑さに弱くとも

角 編集の加減乗除や文化祭

角 福神のひいふかみいよいつなむ

角 広島も長崎も炎天下なり

角 五で割つて十一月に余り無し

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 古池や石もて開く氷面鏡

角 長旅の雪また雪のユーラシア

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 古池に石投げて割る氷かな

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 竹林の一番端の竹の凍て

角 難民が飛行機で来て木の実割る

角 夕立の昨日は降らず今日はまた

角 雑草の生えては枯るる植木鉢

角 聞き役の今はお墓を洗ふ役

角 みんな家中電気で動く冬籠

掘つて来しモグラとミミズ
つひに会ふ 22:22
お掘り来し 22:23

地下を掘る
22:24 地下道の

地下を行くへとい
まひなり

0

0

0

22:14

47
8
ck

2024・11・28【角川俳句賞2025 A 16 全26句】選32句

12行3段組14ポ 2024年11月28日 03:11へ1 桐10

角 制服に中高一貫校の春

角 天高し大手を振つて大手町

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 飾りある内の裏なる内裏雛

角 静動の石、竹、水や添水鳴る

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 シャクシャクと水の結晶梨噛る

角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も

角 超音波かも蝙蝠の存守唄

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 中元のタオルセットよ年用意

角 掘つて来て土龍の穴に蚯蚓落つ

角 男爵の出世目出度し薯の秋

角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

角 情熱や少し暑さに弱くとも

角 編集の加減乗除や文化祭

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 広島も長崎も炎天下なり

角 五で割つて十一月に余り無し

角 長旅の雪また雪のユーラシア

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 古池や石もて開く氷面鏡

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 竹林の一番端の竹の凍て

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 雑草の生えては枯るる植木鉢

角 夕立の昨日ふらざる分をけふ

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 聞き役の今はお墓を洗ふ役

角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

11.28 4:43 am
こころのなつ
そらうのなつ
なつにまづ

7:46 am
夕日おのほろ
ほろおのほろ
おのほろ

8:17 am
おのほろおのほろ
おのほろおのほろ
おのほろおのほろ

8:26 am
おのほろおのほろ
おのほろおのほろ
おのほろおのほろ

8:30 am
おのほろおのほろ
おのほろおのほろ
おのほろおのほろ

11:28 7:30 am

2024・11・28【角川俳句賞2025 A 17 全27句】 選34句

12行3段組14ポ 2024年11月28日 11:09 へー 桐10

角 制服に中高一貫校の春

角 聞き役の今はお墓を洗ふ役

角 湯豆腐に葱も生姜も鯉節も

角 飾りある内の裏なる内裏雛

角 天高し大手を振つて大手町

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 静動の石、竹、水や添水鳴る

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 超音波かも蝙蝠の子守唄

角 シャクシャクと石細胞や梨嚙る

角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も

角 蚯蚓の穴が土龍の穴に出くはしぬ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 数へ日の残りの日々を大切に

角 情熱や少し暑さに弱くとも

角 男爵の出世目出度し薯の秋

角 中元のタオルセットよ年用意

角 広島も長崎も炎天下なり

角 編集の加減乗除や文化祭

角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 五で割つて十一月に余り無し

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 古池や石もて開く氷面鏡

角 長旅の雪また雪のユーラシア

角 蛸壺の出るつもりなき出口かな

角 竹林の一番端の竹の凍て

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 雑草の生えては枯るる植木鉢

角 夕立の昨日ふらざる分もけふ

角 みんな家中電気で動く冬籠

2024・11・28【角川俳句賞2025 A 18 全290句】選34句

ミサイルの夕は
冷たき筒の中
11.29 3:59 am

土龍の穴の
空にほほえみ
2024 11.29 1:36 am

出るにまじり
記さし
11.29 3:5 am

目のあたり大陸の座 11.29 4:1 am
大陸の座のつもとや秋の 上 4:10 am

角 制服の中高一貫校の春

角 飾りある内の裏こそ内裏難

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 超音波かも蝙蝠の子守唄

角 蚯蚓の道が土龍の穴の壁穿つ

角 情熱や少し暑さに弱くとも

角 広島も長崎も炎天下なり

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 蛸壺の出るつもりなき出口かな

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 夕立の昨日ふらざる分までも

角 聞き役の今はお墓を洗ふ役

角 天高し大手を振つて大手町

角 静動の石、竹、水や添水鳴る

角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 男爵の誉たまはる薯の秋

角 編集の加減乗除や文化祭

角 五で割つて十一月に余り無し

角 古池や石もて開く氷面鏡

角 竹林の一番端の竹の凍て

角 雑草の生えては枯るる植木鉢

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 湯豆腐に葱も生姜も鯉節も

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も

角 中元のタオルセットよ年用意

角 数へ日の徒党を組んで来りけり

角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 長旅の雪また雪のユーラシア

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 枯ちける人に春の座つてもかな

角 金に似たる座

大勢と白く名を 11.29 3:37 am

枯ちける人に春の座つてもかな
2024 11.29 3:21 am

2024・11・29【角川俳句賞2025 A 19 全315句】 選38句

→4と53 10:26
12:41と54
の5
8:35
am

46のまに14と5あり~
6:57am
→98:18
am

11.29 8:13am
11.29 8:13am

- 角 新しき席と教室春の声 4:40 am
角 箱書の内と裏こそ肉裏雛 6:46 am
角 春塵のつもるつもりや辞書の上 6:55 am
角 大乗と自ら名乗る桜かな 7:00 am
角 万葉の裔の百葉箱の夏 7:07 am
角 超音波かも蝙蝠の子守唄
角 土龍の穴の壁に蚯蚓が貌を出す
角 情熱や少し暑さに弱くとも
角 広島も長崎も炎天下なり
角 山火事の迫りつつある大瀑布
角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴
角 蛸壺の出るに出られぬ訳でなし
角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ
角 夕立の昨日ふらざる分までも 6:50 am
角 聞き役の今はお墓を洗ふ役
角 天高し大手を振つて大手町
角 静動の石、竹、水や添水鳴る
- 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る
角 里は丸く山は長しよ芋の秋
角 男爵の誉たまはる薯の秋
角 編集の加減乗除や文化祭
角 五で割つて十一月に余り無し
角 古池や石もて開く氷面鏡
角 竹林の一番端の竹の凍て
角 ミサイルのいまは冷たき筒の中
角 雑草の生えては枯るる植木鉢
角 みんな家中電気で動く冬籠
角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も
角 凍豆腐大豆の色に戻りけり
角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ
角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も
角 中元のタオルセットよ年用意
角 数へ日は怒濤のごとし砕け散る
角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

- 角 紫も清も遊びし双六ぞ
角 長旅の雪また雪のユーラシア
角 本もまた雪崩れんとして春隣
角 灰になり土に紛れて春を待つ

11.30
5:14 am

雪国に
雪のフロヤ
松の芽
11.30
4:58 am

雪の山
あーやとまじり
11.30
4:58 am

下まに雪はをけれ
衣の雨
2024 11.30
4:50 am

2024.11.29 角川俳句賞2025 A 全33句 選38句

- 角 新しき席と教室春の山
角 内といふ字裏といふ字や内裏雛
角 春塵のつもるつもりや辞書の上
角 大乘を自ら唱ふ桜かな
角 万葉の裔の百葉箱の夏
角 超音波かも蝙蝠の子守唄
角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな
角 情熱や少し暑さに弱くとも
角 広島も長崎も炎天下なり
角 山火事の迫りつつある大瀑布
角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴
角 蛸壺の出るに出られぬ訳でなし
角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ
角 夕立や昨日ふらざる分までも
角 天高し大手を振つて大手町
角 聞き役の今はお墓を洗ふ役
角 静動の石、竹、水や添水鳴る
- 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る
角 里は丸く山は長しよ芋の秋
角 男爵の誉たまはる薯の秋
角 編集の加減乗除や文化祭
角 五で割つて十一月に余り無し
角 古池や石もて開く氷面鏡
角 竹林の一番端の竹の凍て
角 ミサイルのいまは冷たき筒の中
角 雑草の生えては枯るる植木鉢
角 みんな家中電気で動く冬籠
角 湯豆腐に葱も生姜も鯉節も
角 凍豆腐大豆の色に戻りけり
角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ
角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も
角 お中元のタオルセットよ年用意
角 数へ日が怒涛のごとく碎け散る
角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

17行3段組14ポ 2024年11月29日 13:03 へー 桐10

- 角 紫も清も遊びし双六ぞ
角 長旅の雪また雪のユーラシア
角 本もまた雪崩るる如し春隣
角 灰になり土に紛れて春を待つ

大雪と雪やせ
吹き飛ばす心吹く風か
4:27 am

雪の衣の仙に追
4:35 am

白依に招かれ雪のトンネルを
4:32 am

起きてけて余白はかりの雪の
4:40 am

客船は雪国の春を待ち
11.30 3:55 am

東風の都と流るる雨
4:12 am

4:28 am

14:47

2024・11・30【角川俳句賞2025 A 丁21 全365句】選43句

東へ都還せり
2024 11.30 23:50
12.1 5:19 am
12.1 8:40 am
12.1 8:40 am

17行3段組14ポ 2024年11月30日 17:00へ1 桐10

角 新しき席と教室春の山

角 聞き役の今はお墓を洗ふ役

角 客船は異国の春を伝えけり

角 静動の石、竹、水や添水鳴る

角 春塵のつもるつもりや辞書の上

角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る

角 内といふ字裏といふ字や内裏雛

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 電柱の柱は丸し春燈

角 男爵の誉たまはる薯の秋

角 大乘を自ら唱ふ桜かな

角 編集の加減乗除や文化祭

角 東西の都、日暮の花の雨

角 五で割つて十一月に余り無し

角 超音波かも蝙蝠の子守唄

角 竹林の一番端の竹の凍て

角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな

角 古池や石もて開く氷面鏡

角 情熱や少し暑さに弱くとも

角 ミサイルのいまは冷たき筒の中

角 広島も長崎も炎天下なり

角 雑草の生えては枯るる植木鉢

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 凍豆腐大豆の色は戻りけり

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 夕立や昨日ふらざる分までも

角 鶴舞ふやその手羽元も手羽先も

角 天高し大手を振つて大手町

角 お中元のタオルセットよ年用意

角 数へ日が怒涛のごとく砕け散る

角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 長旅の雪また雪のユーラシア

角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角 雪国の朝湯に浸る雪見かな

角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 本棚の我に雪崩るる春隣

角 初日の出灯台は灯を消して

角 灯台を消して行て初日かな

角 初日の出

角 世に広々広し

角 春の影は

角 23:56

角 12.1 7:55

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

角 12.1 8:40 am

2024・12・1【角川俳句賞2025 A 722 全388句】選43句

17行3段組14ポ 2024年12月1日 22:22へ1桐10

角客船は祖国の春を伝へけり

角聞き役の今はお墓を洗ふ役

角新しき席と教室春の山

角静動の石、竹、水や添水鳴る

角春塵のつもるつもりや辞書の上

角シャクシャクと石細胞の梨嚙る

角内と置き裏と続けて内裏雛

角里は丸く山は長しよ芋の秋

角電柱の柱は丸し春燈

角男爵の誉たまはる薯の秋

角大乘を自ら唱ふ桜かな

角編集の加減乗除や文化祭

角都をば東に遷す花の雨

角五で割つて十一月に余り無し

角超音波かも蝙蝠の子守唄

角竹林の一番端の竹の凍て

角土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな

角古池や石もて開く氷面鏡

角情熱や少し暑さに弱くとも

角ミサイルのいまは冷たき筒の中

角広島も長崎も炎天下なり

角雑草の生えては枯るる植木鉢

角万葉の裔の百葉箱の夏

角みんな家中電気で動く冬籠

角山火事の迫りつつある大瀑布

角湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

角聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角凍豆腐大豆の色に戻りけり

角今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角夕立や昨日ふらざる分までも

角鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

角天高し大手を振つて大手町

角お中元のタオルセットの年用意

角数へ日が怒濤のごとく砕け散る

角灯台は初日を受けて輝けり

角福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

角紫も清も遊びし双六ぞ

角長旅の雪また雪のユーラシア

角雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角雪国の朝湯に浸る雪見かな

角雪の夜の仏に迫る火の勢ひ

角灰になり土に紛れて春を待つ

光をよこす
海山の香り

内と裏を
衣とも
7:05 am

先に内
衣に衣と
7:03

おは内
つづけて衣と
内衣強
6:57 am

そして衣と
つぎに

振れは
13, 2, 23, 6
am

17 行 3 段組 14 才
20 24 年 12 月 2 日
13 24 へ 1 桐 10

角 聞き役の今はお墓を洗ふ役

角 静動の石、竹、水や添水鳴る

角シャクシャクと石細胞の梨嚙る

角里は丸く山は長しよ芋の秋

角男爵の誉たまはる薯の秋

角 編集の加減乗除や文化祭

角五で割つて十一月に余り無し

角 竹林の一番端の竹の凍て

角 古池や石もて開く氷面鏡

角ミサイルのいまは冷たき筒の中

角 雑草の生えては枯るる植木鉢

角 みんな家中電気て動く冬籠

魚 湯 豆 腐 に 葱 も 生 姜 も 鰹 節 も

角凍豆腐大豆の色に戻りに

角 揚にたての カナリ 仮名書き カキフライ

角 お中元の夕方セツトの年用意

角 灯台は神の依代初日の出

角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

角 長旅の雪また雪のユーラシア

角雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角雪国の朝湯に浸る雪見かな

角雪の夜の仏に迫る火の勢ひ

角灰になり土に紛れて春を待つ

屋根の雪清々
水玉
滴々
2:3
4:3 } an

✓ [水圧の
✓ [圧の
✓ [圧の
4: 39 am

村人の付けし名のあり春の山
は 84 の名乙 0 年ふ)
4:42

改
子雪
今秋の
アップ
テの
甲上
着搭
12-3
5:40
am

2024・12・31【角川俳句賞2025 A 丁24 全418句】選43句

17行3段組14ボ 2024年12月3日 13:34 へ1 桐10

角 村人は別の名で呼ぶ春の山

角 灯台は白い依代初日の出

角 新しき席と教室春の山

角 福神のひいふう、みいよいつむう、な

角 蓋とれば内の裏なる内裏雛

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 春塵のつもるつもりや辞書の上

角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

角 電柱の柱は丸し春燈

角 長き長き雪の列車をユーラシア

角 大乘を自ら唱ふ桜かな

角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角 ひんがしへ都を遷す花の雨

角 雪国の朝湯に浸る雪見かな

角 超音波かも蝙蝠の子守唄

角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ

角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 情熱や少し暑さに弱くとも

角 広島も長崎も炎天下なり

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 夕立や昨日ふらざる分までも

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 秋晴の大手を振って大手町

かりそめの ~~せいふく~~ 2024 秋の雲 12.5 3:20am

冬眠の葉は ~~は~~ 底に ~~ま~~ 3:43am

HK=手羽元

4:12am 2024 12.4 4:14am

冬 館 本歌 文芸 子 昭和 科学 歴史

～五五七 五七五

角 暖かや前足のある赤ん坊 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役

角 蓋とれば内の裏なる内裏難 角 静動の石、竹、水や添水鳴る

角 春塵のつもるつもりや辞書の上 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る

角 電柱の柱は丸し春燈 角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 大乘を自ら唱ふ桜かな 角 男爵の誉たまはる薯の秋

角 ひんがしへ都を遷す花の列 角 編集の加減乗除や文化祭

角 超音波かも蝙蝠の子守唄 角 五で割つて十一月に余り無し

角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな

角 情熱や少し暑さに弱くとも 角 竹林の一番端の竹の凍て

角 広島も長崎も炎天下なり 角 古池や石もて開く氷面鏡

角 万葉の裔の百葉箱の夏 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中

角 山火事の迫りつつある大瀑布 角 雑草の生えては枯るる植木鉢

角 夕立や昨日ふらざる分までも 角 みんな家中電気で動く冬籠

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴 角 冬眠の叶はぬ雀庭に来る

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ 角 水圧の中に大きな鯨かな

角 秋晴の大手を振つて大手町 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 ひねられし蒟蒻のあるおでんかな

角 お中元のタオルセットの年用意

角 灯台は白い依代初日の出

角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

角 長き長き雪の列車をユーラシア

角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角 雪国の朝湯に浸る雪見かな

角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 えんやらやとは立春の鬼ヶ島

角 秋晴の大手を振つて大手町

角 冬眠の叶はぬ雀庭に来る

角 暖かや前足のある赤ん坊

角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲

角 大いなる水圧おほいなる鯨

角 蓋とれば内の裏なる内裏難

角 聞き役の今はお墓を洗ふ役

角 湯豆腐に葱も生姜も鯉節も

角 春塵のつもるつもりや辞書の上

角 静動の石、竹、水や添水鳴る

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 電柱の柱は丸し春燈

角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 大乘を自ら唱ふ桜かな

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 ひねられし蒟蒻のあるおでんかな

角 ひんがしへ都を遷す花の列

角 男爵の誉たまはる薯の秋

角 お中元のタオルセットの年用意

角 超音波かも蝙蝠の子守唄

角 編集の加減乗除や文化祭

角 灯台は年中無休初日の出

角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな

角 五で割つて十一月に余り無し

角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

角 情熱や少し暑さに弱くとも

角 ラーメンのスープ飲み干す神無月

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 広島も長崎も炎天下なり

角 丁度いい感じの十二月始め

角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 風がよふ気圧の谷の寒さかな

角 長き長き雪の列車をユーラシア

角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな

角 竹林の一番端の竹の凍て

角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 古池や石もて開く氷面鏡

角 雪国の朝湯に浸る雪見かな

角 夕立や昨日ふらざる分までも

角 ミサイルのいまは冷たき筒の中

角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 雑草の生えては枯るる植木鉢

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 みんな家中電気で動く冬籠

～の二次元的

2024.12.27 全44句 選50句

17行3段組14ポ 2024年12月7日 13:27 へ1 桐10

角 えんやらやとは立春の鬼ヶ島 角 秋晴の大手を振つて大手町 角 冬眠の叶はぬ雀庭に来る

角 暖かや前足のある赤ん坊 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲 角 大いなる水圧おほいなる鯨

角 蓋とれば内の裏なる内裏難 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役 角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も

角 春塵のつもるつもりや辞書の上 角 静動の石、竹、水や添水鳴る 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 電柱の柱は丸し春燈 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 大乘を自ら唱ふ桜かな 角 里は丸く山は長しよ芋の秋 角 蒟蒻に手の込んであるおでんかな

角 ひんがしへ都を遷す花の列 角 男爵の誉たまはる薯の秋 角 お中元のタオルセットの年用意

角 超音波かも蝙蝠の子守唄 角 編集の加減乗除や文化祭 角 灯台は年中無休初日の出

角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな 角 五で割つて十一月に余り無し 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

角 情熱や少し暑さに弱くとも 角 ラーメンのスープ飲み干せ神無月 角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 広島も長崎も炎天下なり 角 丁度いい感じの十二月始め 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

角 万葉の裔の百葉箱の夏 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな 角 長き長き雪の列車のユーラシア

角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな 角 竹林の周辺に立つ竹の凍て 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角 山火事の迫りつつある大瀑布 角 古池や石もて開く氷面鏡 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな

角 夕立や昨日ふらざる分までも 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中 角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴 角 雑草の生えては枯るる植木鉢 角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ 角 みんな家中電気で動く冬籠

2024.12.7 22:48 数へほの 金糸の糸は 12.7 23:02 冷たき 岸の 後 12.8 2:18 am 12.8 2:22 am

夕下事の均等 12.18 3:48 am

12.8 2:52 am 12.8 2:55 am 12.8 3:12 am 12.8 2:30 am 12.8 2:32 am 12.8 2:36 am

角 えんやらやとは立春の鬼ヶ島
角 暖かや前足の^{使ふはAの54am}ある赤ん坊
角 蓋とれば内の裏なる内裏難
角 入学の教室の皆見ず知らず
角 春塵のつもるつもりや辞書の上
角 電柱の柱は丸し春燈
角 超音波かも蝙蝠の子守唄
角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな
~~角 情熱や少し暑さに弱くとも~~
角 冷房のビル、家、車、広島よ
角 万葉の裔の百葉箱の夏
角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな
角 山火事の迫りつつある大瀑布
角 縦書の均等割の涼しさよ
角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴
角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ
角 秋晴の大手を振って大手町
角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲
角 聞き役の今はお墓を洗ふ役
角 静動の石、竹、水や添水鳴る
角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る
角 里は丸く山は長しよ芋の秋
角 男爵の誉たまはる薯の秋
角 編集の加減乗除や文化祭
角 惜気なく栗を潰してゐたりけり
角 五で割つて十一月に余り無し
角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月
角 風かよふ気圧の谷の寒さかな
角 竹林に外れし竹の凍てて立つ
角 古池や石もて開く氷面鏡
角 ミサイルのいまは冷たき筒の中
角 本堂も仏も枯れて静けさよ
角 雑草の生えては枯る植木鉢
角 みんな家中電気で動く冬籠
角 冬眠の叶はぬ雀庭に来る
角 大いなる水圧おほいなる鯨
角 湯豆腐に葱も生姜も鰹節も
角 凍豆腐大豆の色に戻りけり
角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ
角 お中元のタオルセットの年用意
角 灯台は年中無休初日の出
角 福神のひいふう、みいよ、いつもう、な
角 紫も清も遊びし双六ぞ
角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も
角 長き長き雪の列車のユーラシア
角 寒し寒し風吹く中の寒の雨
角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ
角 雪国の朝湯に浸る雪見かな
角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ
角 灰になり土に紛れて春を待つ

水鳥のまき毒に冷えん 2024 12.10 0:15am 予備

下子の子うは 12.10 1:45am 読むが 43 51 33

- | | | |
|------------------|------------------|----------------------|
| 角 えんやらやとは立春の鬼ヶ島 | 角 聞き役の今はお墓を洗ふ役 | 角 冬眠の叶はぬ雀庭に来る |
| 角 暖かや前足つかふ赤ん坊 | 角 静動の石、竹、水や添水鳴る | 角 大いなる水圧おほいなる鯨 |
| 角 蓋とれば内の裏なる内裏難 | 角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る | 角 湯豆腐に葱も生姜も鯉節も |
| 角 入学の教室すべて見ず知らず | 角 里は丸く山は長しよ芋の秋 | 角 凍豆腐大豆の色に戻りけり |
| 角 春塵のつもるつもりや辞書の上 | 角 男爵の誉たまはる薯の秋 | 角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ |
| 角 電柱の柱は丸し春燈 | 角 編集の加減乗除や文化祭 | 角 お中元のタオルセツトの年用意 |
| 角 超音波かも蝙蝠の子守唄 | 角 惜気なく栗を潰してゐたりけり | 角 灯台は年中無休初日の出 |
| 角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな | 角 渋柿も熟せば落る朱色かな | 角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な |
| 角 冷房のビル、家、車、広島よ | 角 五で割つて十一月に余り無し | 角 紫も清も遊びし双六ぞ |
| 角 万葉の窓の百葉箱の夏 | 角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月 | 角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も |
| 角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな | 角 風かよふ気圧の谷の寒さかな | 角 長き長き雪の列車よユーラシア |
| 角 山火事の迫りつつある大瀑布 | 角 竹林の外側に立つ竹の凍て | 角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ |
| 角 縦書の均等割の涼しさよ | 角 古池や石もて開く氷面鏡 | 角 雪国の朝湯に浸る雪見かな |
| 角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴 | 角 ミサイルのいまは冷たき筒の中 | 角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ |
| 角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ | 角 本堂も仏も枯れて風強し | 角 灰になり土に紛れて春を待つ |
| 角 秋晴の大手を振つて大手町 | 角 雑草の生えては枯るる植木鉢 | |
| 角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲 | 角 みんな家中電気で動く冬籠 | |

12.10 11:47am

12.9 23:47

角 えんやらやとは立春の鬼ヶ島

角 聞き役の今はお墓を洗ふ役

角 冬眠の叶はぬ雀庭に来よ

角 暖かや前足つかふ赤ん坊

角 静動の石、竹、水や添水鳴る

角 大いなる水圧おほいなる鯨

角 蓋とれば内の裏なる内裏難

角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 入学の子らよおほかた見ず知らず

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 春塵のつもるつもりや辞書の上

角 男爵の誉たまはる薯の秋

角 中元のタオルも出して年用意

角 切株の丸く残りし春日かな

角 編集の加減乗除や文化祭

角 年惜しむべく読み返す書ありけり

角 電柱の柱は丸し春燈

角 惜気なく栗を潰してゐたりけり

角 灯台は年中無休初日の出

角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな

角 渋柿も熟せば落る朱色かな

角 福神のひいふう、みいよ、いつもう、な

角 冷房のビル、家、車、広島よ

角 五で割つて十一月に余り無し

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月

角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな

角 風かよふ気圧の谷の寒さかな

角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 竹林の外側に立つ竹の凍て

角 長き長き雪の列車よユーラシア

角 縦書の均等割の涼しさよ

角 古池や石もて開く氷面鏡

角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 ミサイルのいまは冷たき筒の中

角 雪国の朝湯に浸る雪見かな

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 本堂も仏も枯れて風強し

角 雪の夜の仏に迫る火の勢ひ

角 秋晴の大手を振つて大手町

角 雑草の生えては枯るる植木鉢

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲

角 みんな家中電気で動く冬籠

入子や
とす知す存す
2024
12.10 12:58
まだどの歌も
手紙

KM

切株

丸く残りし春日かな

角

編集の加減乗除や文化祭

角

年惜しむべく読み返す書ありけり

角

惜気なく栗を潰してゐたりけり

角

灯台は年中無休初日の出

角

渋柿も熟せば落る朱色かな

角

福神のひいふう、みいよ、いつもう、な

角

五で割つて十一月に余り無し

角

紫も清も遊びし双六ぞ

角

ラーメンの汁も飲み干せ神無月

角

鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

角

風かよふ気圧の谷の寒さかな

角

水鳥の真つ赤に冷えし脚二本

角

竹林の外側に立つ竹の凍て

角

長き長き雪の列車よユーラシア

角

古池や石もて開く氷面鏡

角

雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角

ミサイルのいまは冷たき筒の中

角

雪国の朝湯に浸る雪見かな

角

本堂も仏も枯れて風強し

角

雪の夜の仏に迫る火の勢ひ

角

雑草の生えては枯るる植木鉢

角

灰になり土に紛れて春を待つ

角

みんな家中電気で動く冬籠

角

かりそめの鯖や鰯や秋の雲

とのかもとてふをうそり
入るす
2024.12.11
3:55am

2024.12.10 角川俳句賞2025 A 32 全52句 選49句

角 えんやらやとは立春の鬼ヶ島
角 暖かや前足つかふ赤ん坊
角 蓋とれば内の裏なる内裏難
角 入学やまだどの顔も見ず知らず
角 春塵のつもるつもりや辞書の上
角 電柱の柱は丸し春燈
角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな
角 冷房のビル、家、車、広島よ
角 万葉の裔の百葉箱の夏
角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな
角 山火事の迫りつつある大瀑布
角 縦書の均等割の涼しけれ
角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴
角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ
角 秋晴の大手を振って大手町
角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲
角 聞き役の今はお墓を洗ふ役

角 静動の石、竹、水や添水鳴る
角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る
角 里は丸く山は長しよ芋の秋
角 男爵の誉たまはる薯の秋
角 編集の加減乗除や文化祭
角 惜気なく栗を潰してゐたりけり
角 渋柿も熟せば落る朱色かな
角 五で割つて十一月に余り無し
角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月
角 風かよふ気圧の谷の寒さかな
角 竹林の外側に立つ竹の凍て
角 古池や石もて開く氷面鏡
角 ミサイルのいまは冷たき筒の中
角 本堂も仏も枯れて風強し
角 雑草の生えては枯るる植木鉢
角 みんな家中電気で動く冬籠
角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ

角 大いなる水圧おほいなる鯨
角 凍豆腐大豆の色に戻りけり
角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ
角 中元のタオルもいざや年用意
角 年惜しむべく読み返す書ありけり
角 灯台は年中無休初日の出
角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な
角 紫も清も遊びし双六ぞ
角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も
角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本
角 長き長き雪の列車よユーラシア
角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ
角 雪国の朝湯に浸る雪見かな
角 雪の夜の火事は仏に迫りつつ
角 灰になり土に紛れて春を待つ

2024. 12. 11 角川俳句賞 2025 A

「全538句」 選49句

17行3段組 14ポ 2024年12月11日 13:20 へ1 桐10

角 えんやらやとは春浅き鬼ヶ島

角 静動の石、竹、水や添水鳴る

角 暖かや赤子四つ足にて進む

角 シヤクシヤクと石細胞の梨嚙る

角 蓋とれば内の裏なる内裏難

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 見ず知らずの同じ年ごろ入学す

角 男爵の誉たまはる薯の秋

角 春塵のつもるつもりや辞書の上

角 編集の加減乗除や文化祭

角 電柱の柱は丸し春燈

角 惜気なく栗を潰してゐたりけり

角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな

角 渋柿も熟せば落る朱色かな

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 ミサイルのいまは露けき筒の中

角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな

角 五で割つて十一月に余り無し

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月

角 縦書の均等割の涼しけれ

角 風かよふ気圧の谷の寒さかな

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 竹林の外側に立つ竹の凍て

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 古池や石もて開く氷面鏡

角 冷房のビル、家、車、広島よ

角 本堂も仏も枯れて風強し

角 秋晴の大手を振つて大手町

角 雑草の生えては枯るる植木鉢

角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 聞き役の今はお墓を洗ふ役

角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 雪の夜の火事は仏に迫りつつ

角 雪国の朝湯に浸る雪見かな

角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角 長き長き雪の列車よユーラシア

角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本

角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

角 燈台は年中無休初日の出

角 年惜しむべく読み返す書ありけり

角 中元のタオルよいざや年用意

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 大いなる水圧おほいなる鯨

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

2024 12. 12 2:45 am
日本ゴロ 8:4 am
日本ゴロ 12:12 13:37
wiki? 2:12 2:45 am
5:23

2024 12. 12 3 am
秋の青のや
涙まじかるを
手あて

2024 12. 12 13:42
13:42
13:42

下6 13:43

12:12 12:25 am
12:12 12:25 am

下6
なし
(5:33)

角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島

角 暖かや赤ちやん四つ足で進む

角 蓋とれば内の裏なる内裏難

角 見ず知らずの同じ年ごろ入学す

角 春塵のつもるつもりや辞書の上

角 電柱の柱は丸し春燈

角 薫風に集うてみたき街路燈

角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 冷房のビル、家、車、広島よ

角 縦書の均等割の涼しけれ

角 秋晴や僕字と仮名を携へて

角 爽やかやテニヲハといふ潤滑油

角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲

角 役割の石、竹、水や添水鳴る

角 シヤクシヤクと石細胞の梨嚙る

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 男爵の誉たまはる薯の秋

角 編集の加減乗除や文化祭

角 惜気なく栗を潰してゐたりけり

角 渋柿も熟せば落る朱色かな

角 ミサイルのいまは露けき筒の中

角 五で割つて十一月に余り無し

角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月

角 風かよふ気圧の谷の寒さかな

角 竹林の外側に立つ竹の凍て

角 古池や石もて開く氷面鏡

角 本堂も仏も枯れて風強し

角 雑草の生えては枯るる植木鉢

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ

角 大いなる水圧おほいなる鯨

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 中元のタオルよいざや年用意

角 年惜しむべく読み返す書ありけり

角 灯台は年中無休初日の出

角 福神のひいふう、みいよ、いつもう、な

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本

角 長き長き雪の列車よユーラシア

角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角 雪国の朝湯に浸る雪見かな

角 雪の夜の火事は仏に迫りつつ

角 灰になり土に紛れて春を待つ

wilck
12.13
7:47am

12.13
2:18am

12.13
7:59am

12.13
7:19am
7:57am

2024・12・13【角川俳句賞2025 A 35 全57句】 選50句

17行3段組14ポ 2024年12月13日 13:25 へ1 桐10

角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島

角 協力し水、竹、石の添水鳴る

角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ

角 暖かや赤子は四つ足に進化

角 編集の加減乗除や文化祭

角 大いなる水圧おほいなる鯨

角 蓋とれば内の裏なる内裏難

角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 その辺に助詞の如くに地虫出づ

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 見ず知らずの同じ年ごろ入学す

角 男爵の誉たまはる薯の秋

角 中元のタオルよいざや年用意

角 春塵のつもるつもりや辞書の上

角 惜気なく栗を潰してゐたりけり

角 年惜しむべく読み返す古日記

角 電柱の柱は丸し春燈

角 渋柿も熟せば落る朱色かな

角 灯台は年中無休去年今年

角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな

角 ミサイルのいまは露けき筒の中

角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 秋の夜の漢字と仮名と英数字

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな

角 五で割つて十一月に余り無し

角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月

角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 風かよふ気圧の谷の寒さかな

角 長き長き雪の列車よユーラシア

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 竹林の外側に立つ竹の凍て

角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角 冷房のビル、家、車、広島よ

角 古池や石もて開く氷面鏡

角 雪国の朝湯に浸る雪見かな

角 縦書の均等割の涼しけれ

角 本堂も仏も枯れて風強し

角 雪の夜の火事は仏に迫りつつ

角 爽やかにテニヲハといふ潤滑油

角 雑草の生えては枯るる植木鉢

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲

角 みんな家中電気で動く冬籠

2024 12.13 14:04
献血も 年齢の 12.13 14:04
主 至 め 送 命 の 神 聖 月

たは 幸に ま子に 宛に 15:25
花は 幸に ま子に 宛に 15:25
四つ足に 15:25

2024. 12. 13 角川俳句賞 2025 A 36 全57句 選50句

17行3段組 14ポ 2024年12月13日 17:03 へ1 桐10

角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島

角 その辺に助詞の如くに地虫出づ

角 蓋とれば内の裏なる内裏難

角 見ず知らずの同じ年ごろ入学す

角 春塵のつもるつもりや辞書の上

角 電柱の柱は丸し春燈

角 花は葉に赤子は早も四つ足に

角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 冷房のビル、家、車、広島よ

角 縦書の均等割の涼しけれ

角 爽やかにテニヲハといふ潤滑油

角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲

角 息合うて水、竹、石の添水鳴る

角 編集の加減乗除や文化祭

角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 男爵の誉たまはる薯の秋

角 惜気なく栗を潰してゐたりけり

角 渋柿も熟せば落る朱色かな

角 ミサイルのいまは露けき筒の中

角 秋の夜の漢字と仮名と英数字

角 五で割って十一月に余り無し

角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月

角 風かよふ気圧の谷の寒さかな

角 竹林の外側に立つ竹の凍て

角 古池や石もて開く氷面鏡

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ

角 大いなる水圧おほいなる鯨

角 凍豆腐大豆の色に戻りけり

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 本堂も仏も枯れて風強し

角 雑草の生えては枯るる植木鉢

角 中元のタオルよいざや年用意

角 年惜しむべく読み返す古日記

角 灯台は年中無休去年今年

角 福神のひいふう、みいよ、いつむき

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本

角 長き長き雪の列車よユーラシア

角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角 雪国の朝湯に浸る雪見かな

角 雪の夜の仏に遠き火事ひとつ

角 灰になり土に紛れて春を待つ

厚み32mm 2024 12.14 1:36 am

大文は 2024 12.14 7:23 am

上た 2024 12.14 8:14 am

これとまん今言の所か 12.14 8:30 am

初言と 12.14 8:35 am

生言 12.14 8:37 am

K.M

12.14 1:23 am

12.14 8:14 am

12.14 8:14 am

12.14 8:20 am

角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島	角 息合うて水、竹、石の添水鳴る	角 豆腐凍てて大豆の色に戻りけり
角 その辺に助詞の如くに地虫出づ	角 編集の加減乗除や文化祭	角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ
角 蓋とれば内の裏なる内裏難	角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る	角 本堂も仏も枯れて風強し
角 見ず知らずの同じ年ごろ入学す	角 里は丸く山は長しよ芋の秋	角 雑草の生えては枯るる植木鉢
角 春塵のつもるつもりや辞書の上	角 男爵の誉たまはる薯の秋	角 中元のタオルよいざや年用意 ^{12 15 14 83}
角 電柱の柱は丸し春燈	角 惜気なく栗を潰してゐたりけり	角 灯台の直立不動初日浴ぶ
角 花は葉に赤子は早も四つ足に	角 渋柿も熟せば落る朱色かな	角 大方はこの家この部屋老の春
角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな	角 ミサイルのいまは露けき筒の中	角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な
角 万葉の裔の百葉箱の夏	角 秋の夜の仮名と漢字と英数字	角 紫も清も遊びし双六ぞ
角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな	角 五で割つて十一月に余り無し	角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も
角 山火事の迫りつつある大瀑布	角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月	角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本
角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴	角 風かよふ気圧の谷の寒さかな	角 長き長き雪の列車よユーラシア
角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ	角 竹林の外側に立つ竹 め 寒し	角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ
角 冷房のビル、家、車、広島よ	角 古池や石もて開く水面鏡	角 雪国の朝湯に浸る雪見かな
角 縦書の均等割の涼しけれ	角 みんな家中電気で動く冬籠	角 雪の夜の仏に遠き火事ひとつ
角 爽やかにテニヲハといふ潤滑油	角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ	角 灰になり土に紛れて春を待つ
角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲	角 おほいなる水圧おほいなる鯨	

6.39
1/3

プラン A 「均等割」

ハードエッジ

えんやらやとは浅春の鬼ヶ島

その辺に助詞の如くに地虫出づ

蓋とれば内の裏なる内裏雛

見ず知らずの同じ年ごろ入学す

12.18 0:32 am

春塵のつもるつもりや辞書の上

電柱の柱は丸し春燈

花は葉に赤子は早も四つ足に

土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな

万葉の裔の百葉箱の夏

半袖の炊事、洗濯、掃除かな

山火事の迫りつつある大瀑布

聞き流す毀誉褒貶の冷奴

今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

冷房のビル、家、車、広島よ

縦書の均等割の涼しけれ

爽やかにテニヲハといふ潤滑油

かりそめの鯖や鰯や秋の雲

息合うて水、竹、石の添水鳴る

12.18 8:24 am
12.19 13:29

t-39
2/3

編集の加減乗除や文化祭

シヤクシヤクと石細胞の梨嚙る

里は丸く山は長しよ芋の秋

男爵の誉たまはる薯の秋

惜気なく栗を潰してゐたりけり

渋柿も熟せば落る朱色かな

ミサイルのいまは露けき筒の中

秋の夜の仮名と漢字と英数字

五で割つて十一月に余り無し

ラーメンの汁も飲み干せ神無月

風かよふ気圧の谷の寒さかな

竹林の外側に立つ竹寒し

古池や石もて開く水面鏡

みんな家中電気で動く冬籠

冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ

~~おほいなる水圧おほいなる鯨~~
おほいなる水圧おほいなる鯨

豆腐凍てて大豆の色に戻りけり

揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

~~本堂も仏も枯れて風強し~~
本堂も仏も枯れて風強し

雑草の生えては枯るる植木鉢

t-39
3/3

中元のタオルよいざや年用意

灯台の直立不動初日浴ぶ^{12.18 7:15 am}

大方はこの家この部屋老の春

福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

紫も清も遊びし双六ぞ

鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

水鳥の真つ赤に冷えし脚二本

長き長き雪の列車よユーラシア

雪の山将棋を立てしごと並ぶ

雪国の朝湯に浸る雪見かな

雪の夜の仏に遠き火事ひとつ

灰になり土に紛れて春を待つ

~~へうへう~~と枯木は立てり春を待つ^{い?}

角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島

角 その辺に助詞の如くに地虫出づ

角 蓋とれば内の裏なる内裏難

角 見ず知らずの同じ年ごろ入学児

角 春塵のつもるつもりや辞書の上

角 電柱の柱は丸し春燈

角 花は葉に赤子は早も四つ足に

角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 冷房のビル、家、車、広島よ

角 縦書の均等割の涼しけれ

角 爽やかにテニヲハといふ潤滑油

角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲

角 息合うて水、竹、石の添水鳴る

角 編集の加減乗除や文化祭

角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 男爵の誉たまはる薯の秋

角 惜気なく栗を潰してゐたりけり

角 渋柿も熟せば落る朱色かな

角 ミサイルのいまは露けき筒の中

角 秋の夜の仮名と漢字と英数字

角 五で割つて十一月に余り無し

角 フレーメンの汁も飲み干せ神無月

角 風かよふ気圧の谷の寒さかな

角 竹林の外側に立つ竹寒し

角 古池や石もて開く水面鏡

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ

角 豆腐凍てて大豆の色に戻りけり

角 揚げたてのカラリ仮名書き方キフライ

角 水圧に咆哮もなし大海鼠

角 本堂も仏も枯れて風の音

角 雑草の生えては枯るる榎木鉢

角 中元のタオルよ、いざや年用意

角 灯台の直立不動初日浴ぶ

角 この先はこの家この部屋老の春

角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本

角 長き長き雪の列車よユーラシア

角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角 雪国の朝湯に浸る雪見かな

角 雪の夜の仏に遠き火事ひとつ

角 灰になり土に紛れて春を待つ

【新詩】

2024.12.20 角川俳句賞2025 A

42全63句

選49句

12.20 16:00

17行3段組14ポ 2024年12月20日 13:29 へ1 桐10

角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島

角 爽やかにテニヲハを書き直さるる

角 豆腐凍てて大豆の色に戻りけり

角 日本語に助詞助動詞や地虫出づ

角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 蓋とれば内の裏なる内裏難

角 息合うて水、竹、石の添水鳴る

角 沈黙の圧縮されし海鼠かな

角 難壇の段差に頑と身分の差

角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る

角 本堂も仏も枯れて村滅ぶ

角 見ず知らずの同じ年ごろ入学児

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 雑草の生えては枯るる植木鉢

角 春塵のつもるつもりや辞書の上

角 男爵の誉たまはる薯の秋

角 中元のタオルよ、いざや年用意

角 電柱の柱は丸し春燈

角 惜気なく栗を潰してゐたりけり

角 東京に関東に初茜かな

角 花は葉に赤子は早も四つ足に

角 渋柿も熟せば落る朱色かな

角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな

角 ミサイルのいまは露けき筒の中

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 五で割つて十一月に余り無し

角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな

角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月

角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 芭蕉忌のプロモーションの時雨かな

角 長き長き雪の列車よユーラシア

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 風かよふ気圧の谷の寒さかな

角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 竹林の外側に立つ竹寒し

角 雪の夜の仏に遠き火事ひとつ

角 冷房のビル、家、車、広島よ

角 古池や石もて開く水面鏡

角 灰になり土に紛れて春を待つ

角 縦書の均等割の涼しけれ

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 秋晴の大手を振つて大手町

角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ

「はつやめ」といふ

加賀

特急が初冬に

2024.12.21

4am

初冬の中かみみの

あさ3時 4:30am

初冬の中

特急と 4:5 乗り込んで am

好みのキコ
ck

【川柳】

20
24
12
22
【角川俳句賞2025 A
743 全642句】 選49句

角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島

角 日本語に助詞や助動詞、地虫出づ

角 蓋とれば内の裏なる内裏難

角 難壇の段差に頑と身分の差

角 入学の教室の皆みずしらず

角 春塵のつもるつもりや辞書の上

角 電柱の柱は丸し春燈

角 花は葉に赤子は早も四つ足に

角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな

角 万葉の裔の百葉箱の夏

角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな

角 山火事の迫りつつある大瀑布

角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴

角 今生や蚊の腹に血が透けて見ゆ

角 冷房のビル、家、車、広島よ

角 縦書の均等割の涼しけれ

角 秋晴に大手を振って大手町

角 爽やかにテニヲハで句の蘇る

角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲

角 息合うて水、竹、石の添水鳴る

角 里は丸く山は長しよ芋の秋

角 男爵の誉たまはる薯の秋

角 シャクシャクと石細胞の梨嚙る

角 渋柿も熟せば落る朱色かな

角 惜気なく栗を潰してゐたりけり

角 ミサイルのいまは露けき筒の中

角 五で割って十一月に余り無し

角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月

角 芭蕉忌のプロモーションの時雨かな

角 風かよふ気圧の谷の寒さかな

角 竹林の外側に立つ竹寒し

角 みんな家中電気で動く冬籠

角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ

角 豆腐凍てて大豆の色に戻りけり

角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 沈黙の圧縮されし海鼠かな

角 雑草の生えては枯るる植木鉢

角 本堂も仏も枯れて村滅ぶ

角 中元のタオルよ、いざや年用意

角 東京に関東に初茜かな

角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な

角 紫も清も遊びし双六ぞ

角 新年の石もて開く氷面鏡

角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本

角 長き長き雪の列車よユーラシア

角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角 雪の夜の仏に遠き火事ひとつ

角 灰になり土に紛れて春を待つ

選
51
句

0101

角 竹林の外側に立つ竹寒し
角 みんな家中電気で動く冬籠

19:03

選
50
句

桐
10

角かりそめの鯖や鰯や秋の雲

角息合うて水、竹、石の添水鳴る

角里は丸く山は長しよ芋の秋

角男爵の誉たまはる薯の秋

角シャクシャクと石細胞の梨嚙る

角 渋柿も熟せば落る朱色かな

角惜氣なく栗を潰してゐたりけり

角ミサイルのいまは露けき筒の中

角五で割つて十一月に余り無し

角
ラーメンの汁も飲み干せ神無月

角 芭蕉忌のプロモーションの時雨かな

角風かよふ氣圧の谷の寒さかな

角 竹林の外側の竹寒々と

角 みんな家中電気で動く冬籠

角冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ

角豆腐凍てて大豆の色に戻りけり

角揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ

角 沈黙を圧縮したる海鼠なり

角 雑草の生えては枯るる植木鉢

角 本堂も仏も枯れて村滅ぶ

角 中元のタオルよ、いざや年用意

角 東京に關東に初茜かな

凡々と鳴る年越の掛時計

角白をもて鶴鳴き渡る初御空

角福神のひいふう、
みいよ、いつむう、な

角 紫も清も遊びし双六ぞ

新年の石もて開く氷面鏡

角鶴舞ふやその手羽先も手羽元も

角水鳥の真つ赤に冷えし脚二本

角 長き長き雪の列車よユーラシア

角雪の山将棋を立てしごと並ぶ

角雪の夜の仏に遠き火事ひとつ

角灰になり土に紛れて春を待つ

ト-O-の 返きは32
ヤツ石腹
2024.12.26 5:32
am

ト-O-の 返きは32
ヤツ石腹
2024.12.26 5:32
am

角 えんやらやとは浅春の鬼ヶ島	角 かりそめの鯖や鰯や秋の雲	角 揚げたてのカラリ仮名書きカキフライ
角 日本語に助詞や助動詞、地虫出づ	角 息合うて水、竹、石の添水鳴る	角 沈黙を圧縮したる海鼠なり
角 蓋とれば内の裏なる内裏難	角 蟻螂の硬きは目玉と柔な腹	角 雑草の生えては枯るる植木鉢
角 難壇の段差に頑と身分の差	角 里は丸く山は長しよ芋の秋	角 本堂も仏も枯れて村滅ぶ
角 入学の教室の皆みずしらず	角 男爵の誉たまはる薯の秋	角 中元のタオルよ、いざや年用意
角 春塵のつもるつもりや辞書の上	角 シャクシャクと石細胞の梨噉る	角 凡凡と鳴る年越の掛時計
角 電柱の柱は丸し春燈	角 渋柿も熟せば落る朱色かな	角 東京に関東に初茜かな
角 花は葉に赤子は早も四つ足に	角 惜気なく栗を潰してゐたりけり	角 白をもて鶴鳴き渡る初御空
角 土龍の穴の壁に貌出す蚯蚓かな	角 ミサイルのいまは露けき筒の中	角 福神のひいふう、みいよ、いつむう、な
角 万葉の裔の百葉箱の夏	角 五で割つて十一月に余り無し	角 紫も清も遊びし双六ぞ
角 半袖の炊事、洗濯、掃除かな	角 ラーメンの汁も飲み干せ神無月	角 鶴舞ふやその手羽先も手羽元も
角 山火事の迫りつつある大瀑布	角 芭蕉忌のプロモーションの時雨かな	角 水鳥の真つ赤に冷えし脚二本
角 聞き流す毀誉褒貶の冷奴	角 風かよふ気圧の谷の寒さかな	角 長き長き雪の列車よユーラシア
角 冷房のビル、家、車、広島よ	角 竹林をはみ出して寒々と揺れ	角 雪の山将棋を立てしごと並ぶ
角 縦書の均等割の涼しけれ	角 みんな家中電気で動く冬籠	角 雪の夜の仏に遠き火事ひとつ
角 秋晴に大手を振つて大手町	角 冬眠の叶はぬ鳥は庭に来よ	角 灰になり土に紛れて春を待つ
角 爽やかなテニヲハに句の蘇る	角 豆腐凍てて大豆の色に戻りけり	